

ワーク&ライフ情報

Ver. II

～仕事と家庭のバランスを図るために～

福山大学ワークライフ支援室
(男女共同参画推進室)



目次

I. はじめに	2
II ワークとライフに関する支援体制と Q&A	3
1. 日常生活に係る福利厚生	3
(1) 勤務と休暇	3
(2) 通勤 — 福山大学の制度 —	7
(3) 扶養家族 — 福山大学の制度 —	8
(4) 育児	8
(5) 介護	15
2. 職場環境の保全に係る制度	20
(1) 健康	20
(2) 研究費 — 福山大学の制度 —	22
(3) 学会参加 — 福山大学の制度 —	26
(4) 留学 — 福山大学の制度 —	26
III 男女共同参画推進に係わる現状と対策	27
1. 国際社会の動向と国際比較	27
(1) 男女共同参画に係る国際比較	27
(2) 各国の取組み	32
(3) 国際女性デー	32
(4) 国際家族デー	33
2. わが国の現状と取組み	33
(1) 就労・教育・生活環境におけるわが国の現状	33
(2) わが国の直近の取組み概要	40
3. 広島県の取組み	43
(1) 広島県の施策の概要	43
(2) 広島県の現状	44
4. 福山大学の教育・研究に係わる男女共同参画の現状	50
(1) 2019（令和元）年度学部および大学院に在学する女子学生の割合	50
(2) 本学における教員の年次推移	51
5. 福山大学の取組み	53
(1) 福山大学男女共同参画宣言 2009（平成 21）年 11 月 4 日	53
(2) 福山大学男女共同参画基本計画 2019（第 2 次） 2019（平成 31）年 4 月 1 日	53
(3) 女性教員比率向上のためのポジティブ・アクション 2014（平成 26）年 4 月	55
(4) 福山大学ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）2014（平成 26）年 4 月	55
IV. 参考資料	56

I.はじめに

福山大学は1975（昭和50）年の創設以来「学問にのみ偏重するのではなく、真理を愛し、道理を実践する知行合一の教育によって、人間性を尊重した調和的な全人格陶冶を目指す全人教育」が行われてまいりました。性別での区別や差別がなく、男女共同参画が推進された健康で健全な学びに適した魅力的な学舎であるとともに、教職員が家庭（家族）との時間を大切に、仕事（教育・研究・大学運営）とのバランスがとれる快適な職場環境を目指すことは、その建学の精神に則るものです。

男女共同参画やワークライフバランスは、男性も女性も学びやすく働きやすい職場作りを目指す上での基盤になります。本学は2009（平成21）年11月に男女共同参画を積極的に推進する証として、「男女共同参画宣言」を行ないました。さらに、2013（平成25）年に男女共同参画やワークライフバランスの推進を図る本学の中核部署として福山大学ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）が設置されました。ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）での協議を経て、2014（平成26）年度からの5か年計画として、福山大学男女共同参画基本計画（以下基本計画）が策定されました。福山大学ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）は、基本計画に基づいて、具体案の提言や啓発活動などに取り組み、教職員の皆さまと共にワークライフバランスや男女共同参画の推進に努めてまいりました。その後、2019（平成31）年に第2次基本計画が策定され、現在この基本計画に従い、活動を展開しています。

ワークライフ支援室は様々な活動を展開してまいりましたが、その活動の一つとして、育児や介護に係わる情報冊子「ワーク&ライフ情報～仕事と家庭のバランスを図るため～」を2017（平成29）年1月に発行しました。その後、わが国は働き方改革を掲げ、法が整備されたことで、大きく職場環境や働き方に対する意識が変わってまいりました。特にこの3年間はこれまでにない急速な変化を遂げています。そこで、2017（平成29）年に発行しました冊子「ワーク&ライフ情報～仕事と家庭のバランスを図るため～」の改訂版を制作し、新しい制度に即した情報をお届けすることにしました。前回に引き続き、冊子は本学の男女共同参画推進の指針や教職員の皆さまが日頃感じておられるかもしれない仕事と家庭の両立や研究活動の充実について、Q&A形式でお答えする内容も掲載しました。また、国の新たな制度や福山市で提供されている育児・介護の公共のサービスについて紹介を加えました。

本冊子が皆さまのワークライフバランスのお役に立てれば幸いです。

福山大学ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）

***** **学長メッセージ**（松田文子学長 学長短信 No56 抜粋*****）

ワークライフバランスとか、男女共同参画とかいうと、とかく女性の問題と捉えられがちですが、そうでしょうか。ワークとライフのバランスは男女を問わず重要です。仕事一筋というのはなかなか頼もしい感じですが、仕事上でハードなことが続くと、逃げ場がないので危うい面があります。一歩間違えると、過労死、ということにもなりかねません。「複数の役割に能動的に係わることは精神健康につながる」ともいわれています。つまり、複数の役割を積極的に担うことは、単に直線的に負担を増加させるのではなく、それぞれの役割の遂行が別のそれぞれのリフレッシュになる可能性があるのです。ワークとライフという価値体系のかなり違う領域の両方でアクティブに活動することが、それぞれ別な領域での活力になるようなワークライフバランスを教職員全員で心がけましょう。



【本冊子は、ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）で閲覧できます】

編集後記

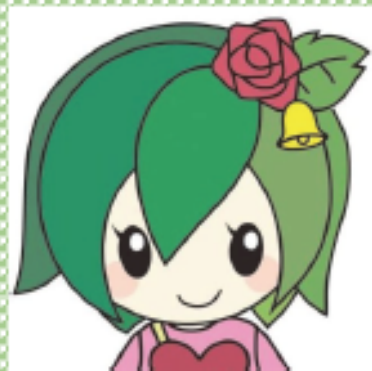
男女共同参画やワークライフバランスの推進は、男性も女性もキャリアを積むことができ、働きやすい職場作りを目指す上での基盤になります。働き方に対して意識変化を伴う大きな改革が求められ、ワークライフバランスの改善は、急務の課題になりました。ライフイベントにあってもキャリアを積み、働きやすい職場であるためには、私達一人ひとりが自分の問題として向き合うことが大切なのかもしれません。この冊子には、本学の教職員の皆さまが日ごろ感じておられるかもしれない、仕事と家庭の両立や研究活動の充実への疑問に対して、Q&A形式でお答えする内容も掲載しました。特に、行政レベルで急速に進む施策と法律の改正のポイントも掲載しました。本冊子が、皆さまの働き方改革やワークライフバランスのお役に立てれば幸いです。

この冊子に対するご感想やワークライフ支援室（男女共同参画推進室）に対する要望等、皆様からのご意見をお待ちしています。

ワークライフ支援室
（男女共同参画推進室）



杉原 成美
高羅 ひとみ
井ノ内 直良
劉 国彬
枝廣 和憲
中道 上
奥村 健一
斜森 琢也



ワーク&ライフ情報 Ver.Ⅱ～仕事と家庭のバランスを図るために～

編集 福山大学ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）

室長：杉原 成美

室員：井ノ内 直良・劉 国彬・枝廣 和憲

・高羅 ひとみ・中道 上・奥村 健一・斜森 琢也

発行 2020（令和2）年3月

福山大学

